

領域10 インフォーマルミーティング議事録（案）

日時：第73回年次大会 2018年3月24日（土）12:45～

1. 領域10 運営会議（2017.12.8）報告

- ・ シンポジウム講演について
 - 提案件数：一般29件，共催7件
 - 採択件数：一般27件（うち4件は条件付き），共催5件
 - 一般会員全員が申し込み可能だが，審査の際の説明は領域代表が行うので，なるべく詳細な概要説明が必要．
 - 採択のための注意点は過去の領域代表に問い合わせる．

- ・ 参加費の増額について
 - 学会の収支がおよそ400万円の赤字となっている．これは主に従前からの補助金が打ち切られたためでのため，参加費の増額が検討されている．

- ・ 優秀学生奨励賞について

- ・ 領域10 運営体制について

2. 領域10 学生奨励賞と学生優秀発表賞について

- ・ 領域10の学生奨励賞要綱
 - 対象者：領域10において累計3回以上（ポスター発表含む）の発表を行った学生
 - 審査方法：(i)講演申込時に申請（学部・修士・博士・研究生が申請可能）
(ii)申請以前に口頭発表とポスター発表を行っており，かつ申請時における講演（口頭発表）の登壇者であること．
(iii)審査は，座長が「優・良・可・非該当」で評価し，その結果に基づき領域運営委員が最終判断を行う．

- ・ 学生奨励賞の在り方について次のような問題提起が学会からなされている．
 - 領域により様々な基準で賞が与えられている．
 - 理事会のオーソライズを経していない．
 - 領域の固定化につながることを懸念される．

- ・学会執行部から学生優秀発表賞実施要項が示された。

名称：日本物理学会学生優秀発表賞

Student Presentation Award of the Physical Society of Japan

審査手順：若手奨励賞に準じる。

- (i)審査要項（受賞者数の上限，算出根拠を示す）と審査員名簿を学会に提出し，理事会の了承を得る。
- (ii)受賞者決定後，審査の経緯と結論を理事会に文書で提出。
- (iii)理事会で審議し受賞者を確定。

対象者：各領域の募集要項で規定。

複数回受賞を可能とする。

2018年秋季大会より実施。学会誌4月号の募集要項に記載予定。

- ・領域10で決めなければならないこと

- 日本物理学会学生優秀発表賞領域10受賞規定の策定
- 日本物理学会学生優秀発表賞領域10募集要項の策定

※従来の領域10学生奨励賞に準じた受賞基準としたい。

※時間はあまり残されていない。

- ・IMで以下のような議論がなされた。

- すでに本領域は参加を表明している。次の2018年秋学会からの実施に間に合わせるために，領域の細則に関する文言の修正を運営委員に一任する。
- 受賞者数の上限を定める必要がある。領域代表の吉矢先生から案が示され，「原則として最大8とする。但し最終承認を行う運営委員の協議により例外的に上限を超えることを認める場合がある。」とする。受賞者数の分科ごとへの割り振りを明示しない。
- 理事会に提出する審査員については，座長や運営委員など役職名でも可。また，病気など事情があった場合には，学会終了後の後日の連絡でも可。
- 審査委員が関係者になってしまう場合には，外れた方がフェアであるので，代理を依頼した方がよい。
- 複数受賞は妨げない。講演回数のカウントの仕方は従来と同様で，3回でセットとし，過去の受賞でカウントした分は次の応募には含まない。
- これまでの学生奨励賞については，物理学会の名前をつけた形ではできない。学生優秀発表賞が同様な内容であり，これへ移行するというニュアンス。

3. 次期代表・副代表・運営委員について

次期と次々期の運営委員について以下の通り承認された。次期の運営委員による手短な挨拶があった。

	2018 年前期	2018 年後期
代表	西谷 滋人 (関西学院大)	西谷 滋人 (関西学院大)
副代表	池田 直 (岡山大)	池田 直 (岡山大)
運営委員		
誘電体	佐藤 幸生 (九大工)	堀部 陽一 (九工大)
	中島 伸夫 (広島大)	中島 伸夫 (広島大)
格子欠陥	松中 大介 (信州大工) 連絡担当	森 英喜 (産業技術短大)
	佐藤 和久 (阪大電頭セ)	佐藤 和久 (阪大電頭セ) 連絡担当
X線・粒子線 (X線)	荒川 悦雄 (東京学芸大)	荒川 悦雄 (東京学芸大)
(電子)	桑原 真人 (名古屋大)	桑原 真人 (名古屋大)
(陽電子)	藪内 敦 (京大原子炉)	オローク ブライアン (産総研)
(中性子・ミュオン)	山田 悟史 (高エネ機構)	山田 悟史 (高エネ機構)
フォノン	筒井 智嗣 (JASRI)	石井 勲 (広島大)
	中村 暢伴 (阪大基礎工)	中村 暢伴 (阪大基礎工)

・次々期の副代表を秋までに決める。ローテーションではX線・粒子線から。

4. その他

- ・年次大会の概要集提出状況

第73回年次大会（2018年）概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	170	162	95.3%
領域2	160	148	92.5%
領域3	267	257	96.3%
領域4	173	160	92.5%
領域5	200	195	97.5%
領域6	131	122	93.1%
領域7	159	144	90.6%
領域8	484	465	96.1%
領域9	151	144	95.4%
領域10	105	96	91.4%
領域11	392	341	87.0%
領域12	218	208	95.4%
領域13	79	72	91.1%
物性（合計）	2689	2514	93.5%
素粒子論領域	229	67	29.3%
素粒子実験領域	272	76	27.9%
理論核物理領域	130	100	76.9%
実験核物理領域	218	155	71.1%
宇宙線・宇宙物理領域	234	90	38.5%
ビーム物理領域	107	88	82.2%
素核宇ビ（合計）	1190	576	48.4%
合計	3879	3090	79.7%